



“学びの森”だより

令和3年度
3月号
3月3日発行

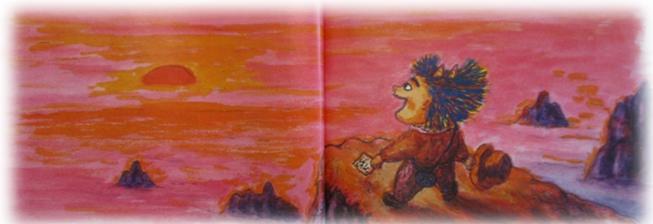
宝探しの旅

3月を迎えました。遅咲きの水仙が、やっと小さな蕾を付け始めています。各学校のホームページからは、6年生を送る会の様子や、高校入試に向き合う真剣な表情の中学3年生の姿が見られるようになりました。本格的な春の到来が、待ち遠しいこの頃です。

今年も、森の道標として、たくさんの授業を参観させていただきました。訪問が終了した3月は、指導案や先生方の感想が入った授業力向上シートを読み返しながら、自分自身の1年間の振り返りに充てる時間を持つようにしています。何度も書き直しをして送られてきた指導案からは、先生方の授業に向かう思いが伝わってきます。結果、必ずしも思い描いたような授業にはならなかったとしても、繰り返し繰り返し子供たちの反応を予想し、考えに考えて臨んだ授業は、きっとこの先、新たな方向性を先生方に示してくれるはずで

す。今年度、最後に出会った教材は、「わにのおじいさんのたから物」でした。小学校3年生の国語の教科書に出てくるお話です。この物語に登場するのは、帽子をかぶった「おにの子」と、しわしわくちやくちやで、人間でいうと130歳くらいの「わにのおじいさん」だけです。心優しいおにの子は、呼びかけても動かないわにのおじいさんが、もう亡くなってしまっていると思い込み、落ち葉を布団がわりに、わにの体を包むように覆ってあげたのです。長旅の疲れで眠っていたわには目を覚まし、そばにいたおにの子に、「わしの宝物をあげよう」と、自分の背中の宝物の隠し場所を記した地図を見せたのです。自分で書き写した地図を見ながら、おにの子がたどり着いたのは、美しい夕焼けが見られる場所でした。思わず帽子を取って、「これが宝物なのだ」と、うなずくおにの子の足元には、宝物が入った箱が埋まっていたのです。それを知らずに、おにの子は、いつまでも美しい夕焼けを見ていたというお話です。

1年の終わりに、こんな素敵な教材に出会った子供たちは、どんな感想を抱くのでしょうか。美しい夕焼けこそが、宝物だと思っているおにの子。そのことを、もし知ったとしたら、わには、果たして、本当のことをおにの子に伝えるのでしょうか。物語は、それ以上のことを伝えてはいません。後は、子供たちの想像に任せるところです。この単元で付けたい力は、「登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること」と、「文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと」とありますが、きっと学習指導要領が求める以上のやり取りが、3年生の教室では、交わされたことでしょう。担任の先生方、よかったら、その時の授業の様子、子供たちの思いなど、学びの森に聞かせていただけませんか。



『わにのおじいさんのたから物』学校図書 小学校「国語」三年下より

かつて、新入生に対して、「学校は、宝物がたくさん隠れているところ。3年間かけて、宝探しの旅に出かけよう」と、話したことを思い出しました。その時、目の前にいた生徒たちが送っていた学校生活と、今の子供たちの生活とでは、かなり異なったものになってしまっていることは確かです。でも、宝物は、いつだって学校生活の中の思わぬところに存在し、一人一人の心の持ちようで、思ってもみなかったものが、宝物になり得ることもあるのだと、この物語は教えてくれた気がします。

桜のつぼみが膨らみかける頃、卒業生たちが、たくさんのかげがえのない宝物を抱えて、胸張って、母校を巣立っていくことを心よりお祈りいたします。

1年間、ありがとうございました。（文責：照井 久美子）



R3年度 活動報告

「森の道標」

「森の道標」は、基本的には教職経験2年目から5年目の教員と講師を主な対象として「指導力向上」を目的とした研修です。今年度は3名の指導員により、年間の訪問回数は延べ174回（小98回、中学校76回）、55名（小学校28名、中学校27名）の先生の授業に訪問させていただきました。これは、市内全体の在籍教員数のうち22%にあたります。

今年度も「よりよい授業を共につくりあげていく」という姿勢で、授業者と継続的に関わることを基本とした「事前研修」をできる範囲で実施しました。「事前研修」は、授業日の1月から1週間ほど前に実施し、授業者の思いを聴きながら授業づくりの相談にのったり、アドバイスをしたりするものです。今年度の研修のうち47%が事前研修でした。

中学校の音楽科では、市内中学校音楽科教諭3名が参加し、「音楽科授業研修会」を4回開催しました。この研修会では、事前研修から専門の講師にご指導いただき、お互いに授業を公開し合い、事後研修会では意見交換をしました。各校一人ずつ配置される音楽科の若手教員にとって、授業力向上と良い刺激を得る場となりました。



「森のカフェ」（教育サロン）

授業のこと、学級経営のこと・・・学びの森では、先生方や地域の方とお話をする時間を大切にしています。今年度も多くの先生や、地域の方から相談がありました。

*相談の詳細はお伝えできませんが、研修会での授業づくりのアドバイス、発表のまとめ方等、個別に対応しました。

「森のカフェ」（教育サロン）の紹介

学校内の研修や同僚や先輩との相談の機会はあるけれど、学びの森「森のカフェ」を活用してみたいかどうかがどうか。時間割の関係で、空き時間が連続しているときや校内の分掌部会が都合により開かれないうちなど、時間に余裕があったら、ちょっと足を伸ばしてみませんか。

*「森のカフェ」の申込みは、直接学びの森にご相談ください。電話での相談も受け付けています。

自ら学ぼうとする先生方に力添えできるよう、私たちも日々学び続けていきたいと思えます。一年間、ありがとうございました。



編集・発行：「学びの森」

〒410-1102

裾野市深良 435 番地

TEL：055-995-4903

FAX：055-995-4904

<http://www10.schoolweb.ne.jp/weblog/data/2240002>